

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んで いきたい 項目	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	20	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	3	
		1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方々との触れ合いや、清掃活動に参加出来ている。公園の有効利用も出来ている。公民館活動への参加が、時間的に中々出来ていない。	1	公民館活動や、地域での清掃活動に参加し、老人会活動にも参加していきたいが、住民票の関係などで難しいところがある。
		2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経験の無いスタッフには、自立支援の理解が未だに出来ていないところがあるが、日々声掛けを行い実践出来ている。	1	新入社員が入った時には、理念をしっかりと伝え共有し理念の実践が出来る様努める。
		3	家族や地域への理念の浸透【外部評価】 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入所時に、家族にはGHとしての思いの説明をしているが、理念という形では説明をしていないが、理解は出来ている。地域の方々には運営推進会議を通じて伝える事が出来ているし徐々に浸透していている。	1	基本理念としての言葉をもって家族や地域の方々に伝えて行く。
		2	2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	3	
		4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所への声掛けは、良く出来ている。散歩中にお花を頂いたり、立ち寄って届けてくれる。時には花を植えて来てくれたり、花や野菜の消毒に来てくれたりする。年末年始には忘年会や鏡開きへの声掛けにも多少だが参加して下さっている。	1	今よりも、もっと気軽に近所の人達が立ち寄りやすい環境作りに努めていきたい。
	5	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へは加入しているが、活動への参加は入居者のADLの低下とともに参加が不可能になって来ている。現在は、清掃活動位の参加になっている。老人会は住民票の関係上案内が来なくなっている。	1	時間の許す限り、参加出来るものへの参加をしていきたい。又、ADLの低下した入居者にも参加出来る内容の行事をお願いしていきたい。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支地 え域 合と いの	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて、認知症を理解して戴いている。認知症を抱える家族の暮らしに少しは役立っていると思える。又、道で会ったときなどには相談に応じられている。認知症を抱えた家族の役には少しは立っていると思われる。	1	地域の人達への声掛を通じて介護実習などが出来たらと考えている。
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	3	
		7 外部 評価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、経験スタッフは評価を活かした改善の理解は出来ているが、外部評価を経験していないスタッフにおいては、経験をしないとしっかりとした理解は出来ないと思われる。	1	スタッフに対し、評価を活かした改善とその取り組みを指導して行きたい。
	3 理念 を 実 践 す る た め の 制 度 の 理 解 と 活 用	8 外部 評価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、実際にレクリエーションに参加して戴き、意見交換、質疑応答などを行い、サービスの質の向上に活かしている。	1	これから、個人情報保護を踏まえ、今より以上の意見交換が出来る様になって、介護の質の向上に繋げて行きたい。
		9 外部 評価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者は、運営推進会議への出席は無いが、地域包括センターの職員の参加は何時もして頂き楽しみにして頂いている。他所の話なども取り入れて頂き、サービスの質の向上に役立っている。	0	
		10 外部 評価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修を受け、スタッフにはミーティングなどで説明をし、家族においては家族会で取り上げ、コピーした冊子を配る等して説明をしている。家族のいない入居者の知人が、遠い親戚を介して公証役場に行かれ後見人として、看取られた例もある。	1	値する入居者があれば又、追って説明を行い活用して頂くよう努める。
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受け、スタッフにはミーティングなどで説明をし、家族にはその都度言葉掛けをしている。防止に努めている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	5		
理念に基づく運営	4	理念を 実践する ための 体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族には、入居契約される時点で重要事項等の説明を行っている。疑問点や不安事項は取り払っているつもりであるが、当の利用者に関しては、その場での理解が出来ている人でも、時間がたつと忘れていく。	1	疑問が生じたり納得のいかない事があればその都度説明し、理解・納得を図るよう努める。
			13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情はその都度傾聴し、カンファレンスやミーティングに取り上げ改善に努め、運営に反映出来る様努めている。意見箱は置いているが、その事の理解が出来ていない。	0	
			14	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の家族新聞、「ふうせん」で活動報告や利用者の暮らし振りの報告、職員、入居者の入れ替わり等を報告している。又、家族の来所持に個々の現況報告、健康状態などを伝えている。金銭管理は個人小口出納長で管理し、連絡帳に領収書を貼り付け、預かり金の残金の確認をして貰っている。又、時々、出納長のコピーを渡している。	1	家族新聞が、スタッフ廻しで書き方や内容に片寄があるので徐々に統一していきたい。スタッフ全員がパソコンで出来る様指導に努める。
			15	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見・不満・苦情はその都度聞き、意見箱を設置している。家族用の駐車場も設け、直接的な意見はきちんとミーティングで取り上げ、本部にも意見を取り上げてもらい、運営に反映出来ている。	1	意見・苦情が出ればその都度改善に努めていく。
			16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見は取り上げ聞いてもらっているが、裏口の屋根の取り付けを申し出ているが建蔽率の関係でと取り合ってもらえないでいる。が、他の件に関してはきちんと耳を傾け案に応じてくれている。相談事が、ホームからの意見要望となり、先走りすぎて困る事もある。	1	出来るだけ、スタッフの意見を取り入れられるよう努め、スタッフのレベルアップ、意識向上に努める。
			17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務体制についての話し合いは行っているが、中々今の体制からの脱皮が出来ないでいる。夜間緊急時の対応や状況の変化に応じた対応は今の所、管理者が行っている。	1	これからも柔軟な勤務体制の確保に努めて行く。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基 づく運 営	4 理 念 の 実 践 制 す	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよ うに、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利 用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は殆んど無いが、自己理由による退職 は時々有る。ダメージを考え、離職した事由は伝 えずにいると、そのまま忘れてくれるので、助 かっている。	0	
		5 人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)			自己評価6項目・外部評価4項目	6
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や 年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生 きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよ う配慮している	性別や、年齢制限は無いが、正職員や、時間給職 員、昇給等に年齢制限がある。自己の持っている 能力はうまく発揮出来ている。能力・思考に応じ た役割分担が出来ている。	1	経験給が加算されない事から不満が時々出る事がある ので、これから先の課題にしていきたい。
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するため に、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	経験の浅いスタッフが、時々、上から物事を見下 ろして、してやっていると言う思いでいる時があ るので、人生経験豊かな、年長者である事を伝 え、自立支援を促し、傾聴、見守りを厳守して行 くよう啓発している。	1	スタッフに対する人権教育を徹底して行ってい く。
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をた て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニン グしていくことを進めている	出来る限り、振り分けながら研修や、グループ ホーム協議会の勉強会に出席出来る様配慮して いる。管理者が新米なのでまずは、管理者の研修を 重視して下に研修報告を行っている。	1	管理者が、一応の研修を受ける事が出来たら、 徐々にスタッフ全員が研修を受けられる体制を 作っていきたい。
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、 ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会や地域のグルー プホームの見学会を設け交流会が出来ている。サー ビスの質の改善、向上が出来ている。	1	グループホーム協議会を通じネットワーク作りや 質の向上に努める。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境 づくりに取り組んでいる	時々、個人面談を行いストレス解消に努めてい る。又、忘年会や新年会を促し、スタッフの輪を 図っている。事務所やスタッフの休憩室がない為 落ち着いて休憩が取れない。又、リビングに事務 机や、パソコンが有り、他に場所の確保が出来 ない為、事務処理に集中できず時間が掛かり過ぎ る。	1	事務所・休憩室の確保

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格重視である為、努力や実績、勤務状況の把握は出来ていないので、向上心ではなく、資格確保の為の勉強になっている。	1	個々の経験や、努力、実績、勤務状況を運営者の目で確認をして欲しい。現実の把握に努めて欲しい。
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価 10項目・外部評価 2項目	4	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)			自己評価 4項目・外部評価 1項目	4	
	1 相談 から 利用 に至 るま での 関係 づく りと その 対応	25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	信頼関係は築けているが、個々の不安や、求めている事は徐々にしか把握出来ない。我ホームでは、個人的に自室に籠る事が無いし、リビングが狭いし、事務所もない為、個人面談の機会が取り辛い。観察は緻密に行い、問いかけ、促しによる信頼関係作りを努めている。	1	見守り、観察を重視していく。
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初に家族の見学を促し、困っている事の相談に応じる。その後、本人面談を行い、家族の不安、介護について求めている事の把握をする。又、生活暦や既往歴を家族に簡単に書いてもらい、照らし合わせながら思いを受け止める努力をしている。	1	最初の印象で信頼関係が築けたり築けなかったりする。電話の対応に注意するよう努める。
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは全部の支援を使うので他のサービス利用は出来ない事を初期対応ではっきりとさせ、家族の介護疲れが、目立つのでまずは家族の負担軽減、利用者本人の馴染みの関係作りを努めている。又、病院や他施設からの転所の際は前の施設に環境や現況の伺いを立てたり面会に伺い、現況把握に努めている。	1	他施設との交流を持ち、横の関係を取りながら早い対応が出来る様、努める。
		28 外部 評価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族面談、本人面談、本人面会と順追って行い。本人面談の折には、他人居者の輪の中に入れ、自己紹介やレクリエーション、おやつタイムに誘い込み、入居者との馴染みの関係を作っていく様努めている。本人の様子があかぬ時は、体験入居を勧めている。	1	若年性のアルツハイマーが増え家族の把握も出来なくなっている事が多いので、家族との誤解が生じないようにしっかりと既往歴や生活暦を支援の無い範囲で引き出す必要がある。個々の対応は同じと言う事はまず無いに等しい。
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)			自己評価 6項目・外部評価 1項目	0	
係り と これ まで の 関係 づく り の 支援	29 外部 評価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のその日の状況に応じ対応が出来ている。スタッフは家族と同様で、生活していく上で、教えられる事や学ぶ事が多々ある。たまには喧嘩もするが、直ぐに忘れ仲直りが出来ている。支えあい助け合った介護が行えている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	親一人子一人の家族が多々ある為、家族の介護負担軽減に努め、鬱にならないよう話を傾聴し、支えあい、精神安定に繋がられるよう努めている。	0	
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と入居者本人の関係が上手くいっていない所が時々有り、修復には時間が掛かるが、会食や外出の機会を促し、本人を理解してもらって両者の関係が旨くいくよう支援し努めている。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ、その関係が継続出来る様家族や本人に声掛けをして、馴染みの関係を本人が嫌がらない程度に継続出来る様支援して行く。	0	
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の性格や生活環境生活暦を把握しながらテーブルの配置や散歩、外出時の車の乗車位置を配慮し仲間意識を高め、馴染みの関係作りにも努め、お互いが支えあえる環境作りに努めている。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の体調が悪くなり、病院に入院と言う状態になっても、時々見舞いに行き関わりを持ち続けている。家族も時々電話などで連絡をくれ関わりが続いている。お別れの時が来てもお別れの会に出席させてもらっている。	0	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価 17項目・外部評価 6項目	0	
	1	一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)		自己評価 3項目・外部評価 1項目	0	
	1 の 一 把 人 握 ひ と り	35 外 部 評 価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は把握できているつもりである。女性ばかりなので、何時の間にか流れに利用者が合わせていっている傾向にある。かえってその方が自立支援になり、旨く言っている事が多い。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は家族の記憶と本人の記憶に食い違いがあり、スタッフが日々の会話の中で馴染みの暮らしや生活歴の把握に努めている。サービス利用経過は、本人が独居だったりすると殆んど分からない事が多い。	0	
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方は、把握出来ている。残存能力の把握を行い、出来るだけ本人に出来る事はして貰って自立支援に努めている。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	0		
	2 介護計画の作成と見直し 本人がより良く暮らし続けるための	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族と面会時などに話し合い、スタッフミーティングでモニタリング、カンファレンスを行い、居宅療養管理指導の主治医、訪問看護師などから、其々の意見やアイデアを頂きながら介護計画を作成している。	0	
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎の介護計画を立て、その都度担当が評価を行っている。変化が生じた時(レベル低下、入退院)にはその都度対応し、現状把握をしながら本人、家族、スタッフ、主治医を交えながら介護計画を作成している。	0	
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に特記事項等を記録し情報の共有に努めている。又、ケアの実践・結果を介護計画の見直しに活かしている。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	0		
	3 柔軟な支援	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の体調不良時や家族の体調に合わせ、その時々要望に応じている。スタッフが足りない時などは、本部や他施設に支援を依頼するなど、柔軟な支援を行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	0	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	認知症の進行とともに本人の意向や必要性が伴わなくなってきた。運営推進会議を通じて地域との連携は出来てきているが、協力支援には至っていない。警察、消防等との協力・支援は行えている。	0	
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて、運営推進会議において地域包括センターの主任ケアマネージャーに相談したり、他施設の施設長や管理者との話し合いの中で情報を得たり、グループホーム協議会の勉強会において情報収集をしている。他サービスの利用はしていない。関連企業内での利用にとどまっている。	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所表立って必要性が無いので具体的な相談はしていないが、ケアプランの立て方などは運営推進会議を通じて相談する事がある。認知症に関しては反対に、相談にのることもあり、運営推進会議により協働し始めているところである。	0	今後いろんな意味での協働が必要になってくると思われる。
		45 外部 評価 21	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原土井病院との連携を取り、本人や家族の希望を尊び、居宅療養管理指導の同意を得られた人に関しては、副院長に二週間に一度往診を受けている。同意の無い人に関しては、家族が同行し、かかりつけ医への受診を行っている。緊急時には直ぐに対応してもらっている。又、毎週木曜日に訪問看護を受け指示を仰いでいる。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	居宅療養管理指導をして頂いている主治医が、認知症の専門医なので、。スタッフも相談がしやすく助かっている。又、その都度連携を取りながら薬の処方・検査や入院・治療が受けられている。緊急時の対応も支援出来ている。	0	
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師や、関連施設の看護師に相談出来ている。又、原土井相談室のSWに相談しながら医療の管理活用が出来ている。救急時の相談も時にはのってもらっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院にあたっては、認知症の進行防止の為もあり、出来るだけ早い退院をお願いしている。入院時の主治医や原土井病院の主治医、看護師、相談室と連携を取りながら早期退院に努めている。	0	
		49 外部評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時や終末期の方針に関しては、家族や主治医、訪問看護師等と事あるごとに話し合いを重ね、全員で方針を共有し、支援に取り組んでいる。	0	
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者が、レベル低下や重度化していく課程において、主治医・家族等と繰り返し話し合いの時間を設け、連携を取りながら支援に努めている。又、本人の体調の変化に対応出来る様、検討・準備している。	0	
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人のグループホームへの入所時や又、グループホームから病院への入院など移り住み返る相手施設と情報の交換・把握を十分に行い(面接・面会など関わりをもち)、本人のダメージを最小限に防げるよう努めている。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価38項目・外部評価11項目	5	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価30項目・外部評価9項目	3	
		52 外部評価 23	(1) 一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価3項目・外部評価2項目	0	
			プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に努め、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような声掛けや対応はしていない。記録等にも同様である。	0	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者皆さん、思いや希望を言いたいだけ言えている。理解力の有無に合わせ説明をしているが、短期記憶がない為直ぐに忘れてしまう。自己決定は出来るがその都度、忘れてしまうので、支援はしているが、納得しながら暮らせているかどうかはさだかでは無い。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出などは、優先する訳ではないが皆さん喜んで同意してくれる。散歩などは一人ひとりのペースに合わせ希望にそっている。やりたい事は散歩くらいの希望で、ベット臥床をしたい人は其々に臥床している。認知症の進行と共にしたい事、出来る事が困難となっている。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55~60・外部 25~26)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服は家族が買ってくることが多いが、一緒に買い物に出掛けたりして、その人らしいお洒落は出来ている。理美容に関しては、毎月第四月曜日に、福祉理美容が出前カットをしてくれ皆さん楽しみにしてある。行きつけの美容室は、家族が拒否する事が多い。希望があればその都度電話で連絡を取り要望にこたえられるよう支援している。	0	
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	うちは給食が配達されるので、配膳の準備や下膳を共に行い、庭の畑で収穫した野菜を彩りに使ったり楽しんでる。給食会議も第四土曜日に行い、皆さんの意向を伝えている。又、月に一回料理の日を設けスタッフと一緒に好みの物を作り楽しんでる。	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	女性ばかりで、飲酒される入居者はいないが、忘年会や人を招いた時には少しの飲酒はされる人もある。又、朝のバイタル後好みのものを毎日楽しんで飲んであるが、糖尿病やそれに近い人には糖分を控えオリゴ糖やダイエットシュガーで対応し、楽しみを支援している。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけ布パンツを使用し、一人ひとりにあった排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。排泄感の無い人もトイレで排泄出来る様に習慣付けが出来様に支援している。排便のコントロールも主治医と相談し薬の処方依頼しているが、出来るだけ食物繊維を多く摂取出来る様に努めている。	0	
59 外部評価 26	入浴を楽しむことのできる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スタッフが揃っている限り毎日入浴は行っているが、1日おきの入浴である。徘徊が頻繁な入居者がいる為一人ひとりの希望やタイミングにあわせることは難しいが、入浴の回数が増えたことで、皆さんとても喜んである。入居者のレベル低下等でこれ以上の支援は今の所難しい。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の安眠は十分取れているが、椅子での生活の為足の浮腫改善の為にも昼食後の休息が出来る様促しているが徘徊の入居者が時々邪魔をしているが、その時々状況に応じ時間をずらしながら支援している。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	0	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者其々に役割を担ってもらい日々張りのある生活が出来ている。又、自分の洗濯物は自分で畳みスタッフと一緒に自室に持ち帰り片付けている。時々気晴らしに公園でランチをしたり、ペランダでランチやアフタヌーンティーを楽しめるよう支援している。	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆んどの入居者がレベル低下と共に、お金の管理が難しくなっている。財布の中には大金は入れないよう家族ととりきめているが、外食時や買い物時には、出来るだけ本人にお金を持たせ自分の分の支払いをして貰っている。孫やひ孫が来所すると、小遣いをやる事に喜びを感じている人もいる。	0	
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ散歩や外出の機会を設けているが、一対一の支援は出来ていない。スタッフ一人に入居者三人までの希望にはそえている。戸外には出掛けている方だと思える。	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者が自宅にいても普段は行かないようなところへの外出の機会を多く設けている。福祉車両で出掛けるので全員での外出支援となっている。一箇所だけではなく、順を追って興味のある、いろんなところへ行くように支援している。	0	
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい人は良く掛けているが、掛けない人は殆んど掛けないし電話を使用していない時代に頭が戻っている人が多い。手紙も時々季節ごとに書くよう支援しているがレベル低下が著しく、字を忘れてる人が多い。住所と宛名をスタッフが書いたりして支援している。又、代筆の支援をしたりしている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族の面会や訪問はその都度支援し来所が多い方だと思う。知人、友人等も良く来所してくれている方だと思う。行事への参加や、自室でゆっくりお茶を飲みながら、くつろげるよう配慮し努めている。又、共に外出されるよう声掛け支援している。	0		
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	3	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、ベット臥床時の安全確保のためベット柵の使用を、本人家族に了解の上使用している。身体拘束をしないケアにスタッフ一同理解でき、取り組めている。	0		
		68	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全てのスタッフが、居室の入り口や日中玄関やベランダに鍵を掛ける事の弊害を理解し、鍵を掛けないケアに取り組んでいるが、入浴時間中だけは、徘徊からの危険防止の為、全家族や本人の了解を得て、施錠している。	0		
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは、入居者のプライバシーへの配慮をしながら、昼夜通して所在や様子を把握し、安全に気を配れている。	0		
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を 律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	シャンプーや石鹸、歯磨き粉、乳液、義歯消毒剤等一人ひとりの状態に応じて、身体に及ぼす危険物品をスタッフが管理、保管し危険防止に努めている。	0		
		71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための知識を管理者自らが学び、スタッフに指導すると共にスタッフの研修も個々に行い入居者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	1	スタッフの研修を個々に行い事故防止に努める。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフは救命救急の講習を定期的に受講している。月に一回の割合で防災訓練を行う様努力はしているが、中々伴わないでいる。	1	スタッフの防災訓練や、緊急時の対応の訓練を定期的に行うよう努める。
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スタッフは災害時の避難経路を理解しているが、訓練が必要である。地域の人々には日頃より協力を得られるよう働きかけているが、地域にも過疎化が進んでいる為、当てには出来ない。	1	管理者は防火管理者の資格を取得しているが、消防署への届け出はまだである為、防災管理計画をたてスタッフの指導に努める。
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの身体機能の低下や麻痺等で起こり得るリスクについて家族等に説明は出来ている。危険防止はもちろん、押し寄せの無い対応策を考え話し合っている。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75~81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	0	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフは入居者一人ひとりの体調の変化や異変の早期発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、早々の対応が出来ている。いないスタッフには申し送りノートや口答でも申し送り全スタッフに伝達出来ている。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは、入居者一人ひとりが使用している薬の目的や、用法、用量については理解できているが副作用についての理解は定かでは無い。居宅療養管理指導において主治医と症状の把握を相談のうえ服薬の支援に努めている。	0	
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	スタッフは、毎日入居者一人ひとりの排便チェックを行い、水分量の配慮をしながら、体調管理に努めている。又、ラジオ体操や、ワッハッハ体操、三太郎体操、足踏みなど動きの少ない入居者に体を動かす働きかけを良く行っている。整腸剤や下剤の使えない入居者には乾しプルーンやバナナ等が摂取出来るよう努めている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後うがいをやっている。義歯や部分入れ歯の状態に応じ又、個人の能力にあった支援を行っている。夕食後はしっかりと歯磨きを行い、義歯等ははずし、ポリドント等での除菌を支援している。	0		
		79 外部評価 31	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは給食の栄養士が行っている。摂取量や水分量のチェックはスタッフが嘔下や認知症による、嘔む事を忘れてたり、食べる事を忘れていたり入居者にはミキサー食にしたり、器を小さく変えていきながら栄養の確保に努めている。又、摂取量は一人ひとりの身体状況に応じ、主治医と相談しながら支援している。	0		
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	病院受診や外出、散歩帰宅時等には石鹸での手洗い、うがいに努め、風邪で受診をした入居者が今までに一人もない事が自慢である。感染症に関しては、入所時や年に一回のミニドックなどで本人の状態の把握を行って、予防に努めている。	0		
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所はホーム全体の害虫駆除を行い、食器や調理用具は食器乾燥機を利用し、食中毒の予防に努めている。給食は給食業者に管理してもらっているが、送られてきた給食は二時間以内に食べない時は、処分している。又、料理の日の食材は必ず、前日に新鮮な食材を購入し、冷蔵庫で保管管理して調理している。	0		
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	2	
	2 生活の環境づくり その人らしい暮らしを支える	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)			自己評価 5 項目・外部評価 2 項目	2	
		82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関が狭く、玄関らしくないので、ベランダにウッドデッキを置いたり、鉢植えの花を飾ったりして工夫をしている。床板は毎年塗り替えている。入り口や駐車場が解りにくいので、其々にステッカーを貼る等して解りやすく努めている。入り口がスロープになっている為、隣の壁沿いに手摺りを設置し、転倒防止に努めている。	1	看板の高さが見難いので、看板の高さの調節を行う。	
		83 外部評価 32	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には出来るだけ季節感を採り入れ、邪魔にならない空間作りに努めている。トイレや浴室は安全管理、プライバシーの保護を重視するよう努めている。共用スペースが狭いので広く見える工夫と圧迫感が無くゆったりと過ごせるように工夫している。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースは暗黙の了解により、其々の居場所が決まっており仲間作りに役立っている。	1	ソファが立ち上がりにくいので、立ち上がりやすくなる工夫をしたい。	
		85	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、安全を保ち、馴染みのものや好みのものを活用し、本人が心地良く安心出来る配置や飾り付けが出来るよう工夫出来ている。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに換気を行い、ポータブルトイレなどには消臭剤を設置し、空気のおよみを無くしている。又、エアコンを旨く活用し温度調節を行っている。入居者の好みや身体状況に応じてこまめにスイッチの調節をしている。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	0	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家改装型で廊下が狭いため、つたい歩きにはもってこいのリハビリが出来ている。又、皆さん元氣そうに見えるが、屋内では何処かに捕まるところが有るよう工夫がなされているので自立した生活が出来ている。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人、短期記憶が低下し過ぎた方がいるので貼り紙を各部屋にしているが、他の入居者に関しては、一日の流れや場所の把握が出来ているので自立した暮らしが出来ている。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには花が植えてあり皆さん花の開花を楽しみにしてある。ベランダにはウッドデッキが敷き詰めてあり、何時でも外の空気が楽しめ、出掛ける時も椅子に全員が腰掛けて靴が履ける環境作りをしている。たまにはお茶や、ランチも楽しんでいる。よしずでプライバシーの保護も出来ている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	該当番号	
サービスの成果に関する項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	3		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	2		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	2		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	1	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	2	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。